



理事長

桑田真治

ごあいさつ

会員の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当金庫の業務運営に格別のご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに当金庫第111期の決算内容と業務概況をご報告申し上げます。

さて、2022年度の日本経済は、ウイズコロナ政策でスタートし、行動抑制を伴わない大型連休を迎えたことで、旅行や外食、対面型サービスの回復が明確になりました。一方で、夏場には感染が再拡大し、新規感染者もピークを更新、加えて国内自給率の低いエネルギーや食品の値上げがあったものの大きな落ち込みはなく、秋以降も全国旅行支援等でペントアップ需要が顕在化しました。

一方で、企業、特に地域の中小企業は、半導体を含め供給制約が続く中、原材料コストの高騰を価格転嫁できないまま、厳しい状況が続きました。また、金融面からみると、家計、企業ともに資金を積み上げて一歩も動かない籠城状態であり、お金が全く使われていない状況となりました。

このような状況の下、2022年度が最終年度となった当金庫の中期経営計画「おかやましんきんEmpathyプラン」を遂行し、「共感」を中軸としてお客様の事業価値・生涯価値の向上を目指し、SDGsへの取組みとともに、「バリューアップ型金融モデル」を継続的に実践してまいりました。

具体的には、3年ぶりに対面による「岡山県しんきん合同ビジネス交流会」を開催、約450先にのぼる企業・公的機関等のご参加をいただき、多くの商談が成立しました。ウェブ交流会「岡山CREATION」も継続しており、24時間いつでもつながる利点を生かし、対面の交流会の補完を図っております。また、若手経営者の会「おかやまPRODUCE」は10周年を迎え、防災や食、環境などをテーマにした10年間の取組みに対して、地域で共感を得られる活動が循環し始めた実感した年度となりました。

また、個人のお客様には、専門スタッフによる資産運用コンサルティング活動、各種セミナーの開催等により、問題点・課題を解決するライフプランを提案し、生涯価値向上をサポートいたしました。

こうした活動の結果、2022年度は、本業業務での収益力を表すコア業務純益は1,012百万円、経常利益は731百万円、当期純利益は662百万円を計上いたしました。また、経営の健全性を示す自己資本比率は、内部留保の増加に努め、自己資本の質を高めたことで10.79%を確保することができました。

当金庫は、2023年度より「共感」をベースとして、お客様との「共創」を目指す、新たな中期経営計画「おかやましんきんResilienceプラン」をスタートいたしました。変化が激しく、不確実性が高い現在の環境に適応し、地域とともに成長するため「レジリエンス」を高め、地域の皆さまの事業価値・生涯価値の向上を目指します。

同時に、役職員一人一人の「人間力」を結集し、信用金庫の存在意義である「中小企業専門性」「協同組織性」「地域性」という3つの特性を活かしながら、地域金融機関としての存在を示し、より一層の社会的責任を果たしていく所存でございます。

今後とも格別のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

2023年6月

おかやま信用金庫
理事長 桑田 真治